

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成29年6月23日

愛知県知事 殿

提出者 スウェーデンハウス株式会社 名古屋支店

住 所 名古屋市中区栄4-14-31 栄オークリッジ7F

氏 名 木村 浩明

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 052-243-1280

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称

スウェーデンハウス株式会社 名古屋支店

事業場の所在地

名古屋市中区栄4-14-31 栄オークリッジ7F

計画期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

総合工事業

②事業の規模

新築工事売上金額26.40億円

③従業員数

80名

④産業廃棄物の一連
の処理の工程現場
↓
中間処理
↓
最終処分

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

《本社》

工事部 部長 (産業廃棄物処理総括責任者)

《支店》

支店長 (産業廃棄物管理責任者)

支店次長(工事担当) (産業廃棄物処理責任者)

支店管理グループ グループリーダー (事務局)

協力会社

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項(新築工事)

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】※別紙「様式第二号の九 産業廃棄物処理計画実施状況報告書」を参照	
	産業廃棄物の種類	※別紙「様式第二号の九 産業廃棄物処理計画実施状況報告書」のとおり
	排出量	
	(これまでに実施した取組) ・外壁のパネル化による現場作業の削減。 ・現場での分別の徹底。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	※別紙「本年度の計画」のとおり
	排出量	
	(今後実施する予定の取組) ・内壁のパネル化の導入による現場作業の削減。 ・適正数量の部材の払い出し及び納入をし、現場での産業廃棄物の削減を図る。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 建築現場の敷地条件により異なりますが、基本的に9品目(木くず、廃プラスチック類、ダンボール、石膏ボード、金属くず、ガラス・陶磁器類、がれき類)に分別を実施している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】 -		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	-	-
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 -		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	-	-
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】 -		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	-	-
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	-	-
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 -		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	-	-
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	-	-
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	-	-
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	-	-
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	※別紙「様式第二号の九 産業廃棄物 処理計画実施状況報告書」のとおり	
	全 処 理 委 託 量		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量		
	再生利用業者への 処 理 委 託 量		
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量		
	(これまでに実施した取組)		
	・ 外壁のパネル化による現場作業の削減。		
・ 現場での分別の徹底。			

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	※別紙「本年度の計画」のとおり
	全処理委託量	
	優良認定処理業者への 処理委託量	
	再生利用業者への 処理委託量	
	認定熱回収業者への 処理委託量	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	
	(今後実施する予定の取組) ・内壁のパネル化の導入による現場作業の削減。	
※事務処理欄		

備考

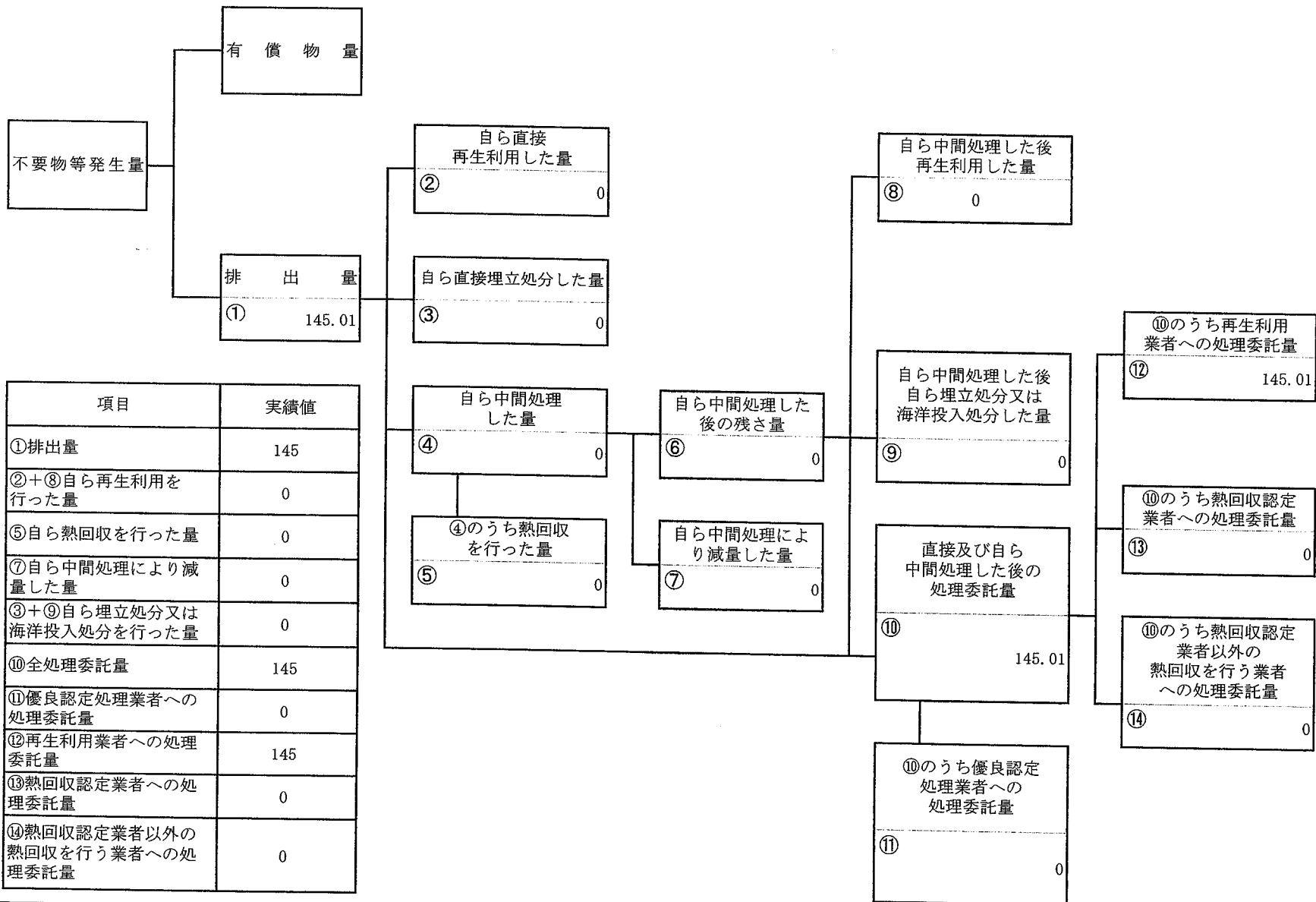
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 本年度の計画(平成 29 年度)

「様式第二号の八 産業廃棄物処理計画書」の添付資料

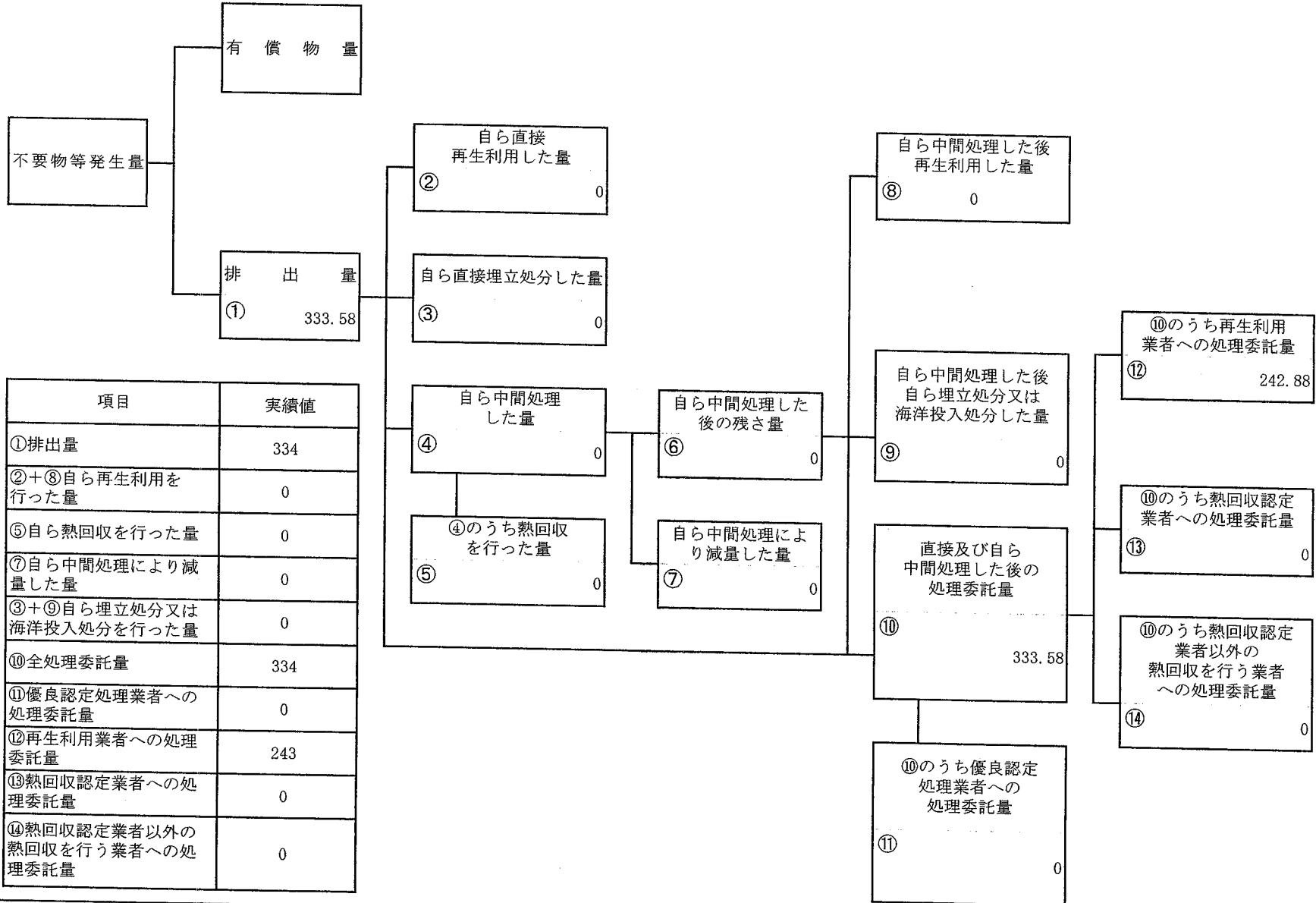
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類:コンクリートがら)



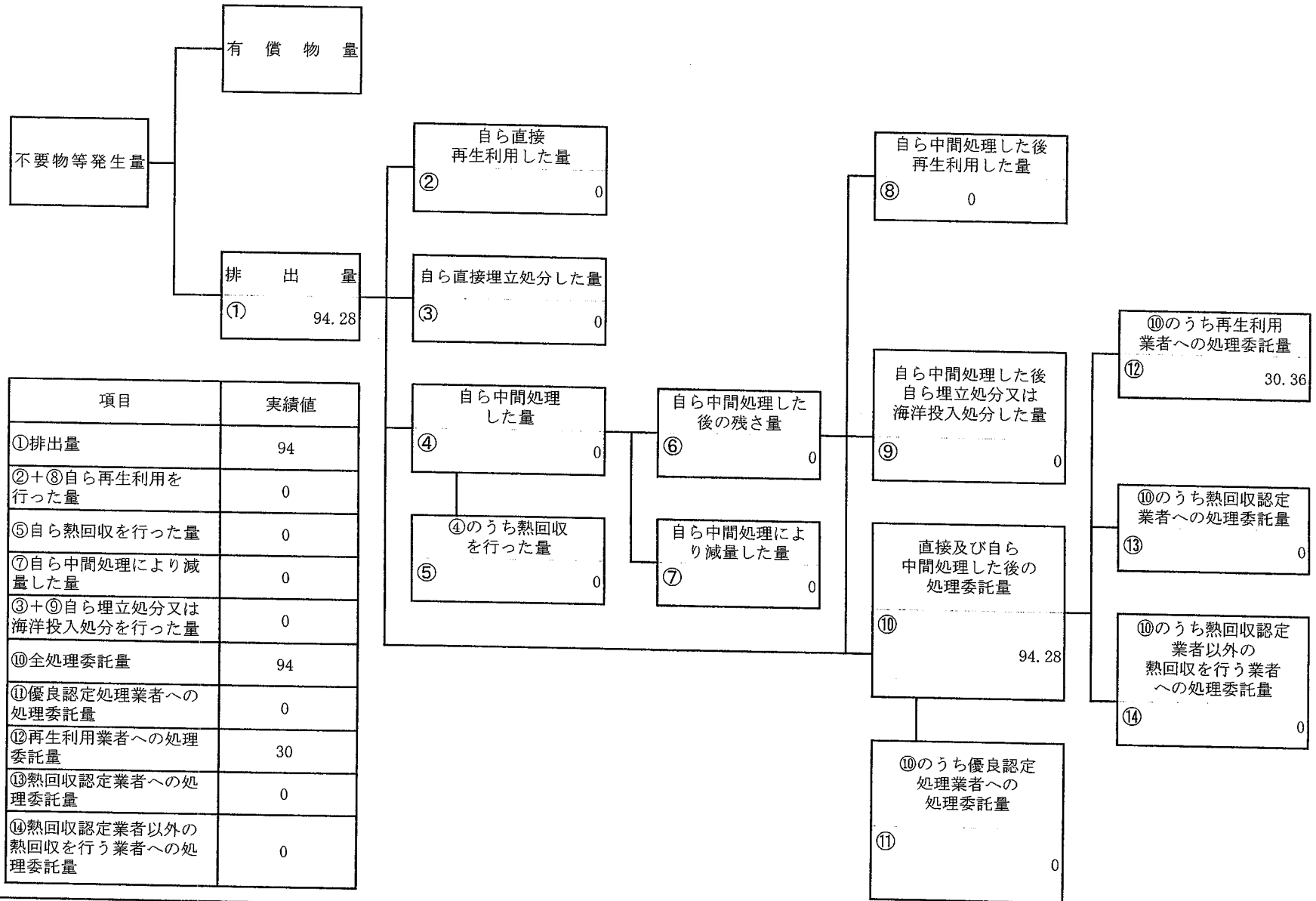
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：がれき類)



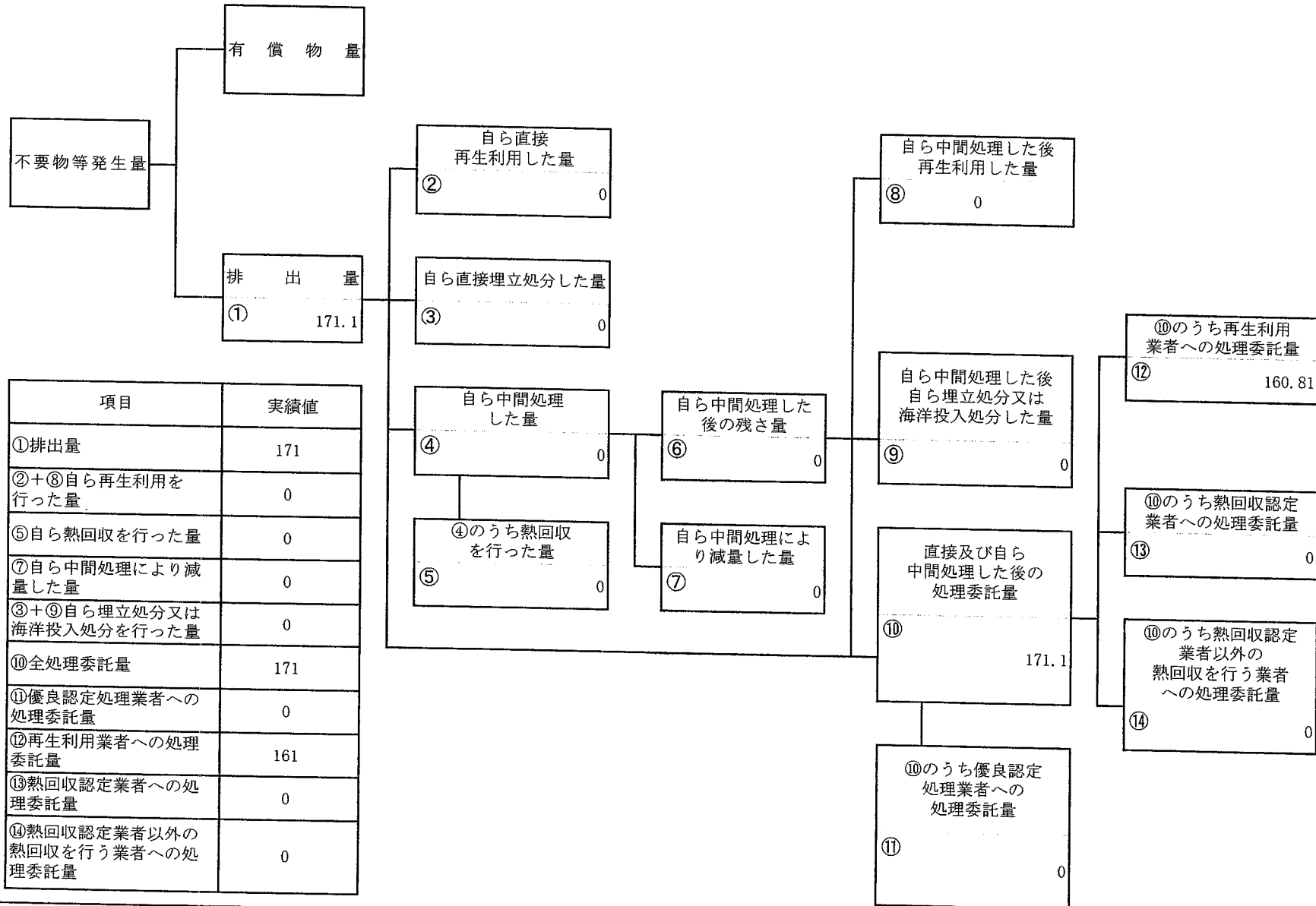
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：ガラス・陶磁器くず)



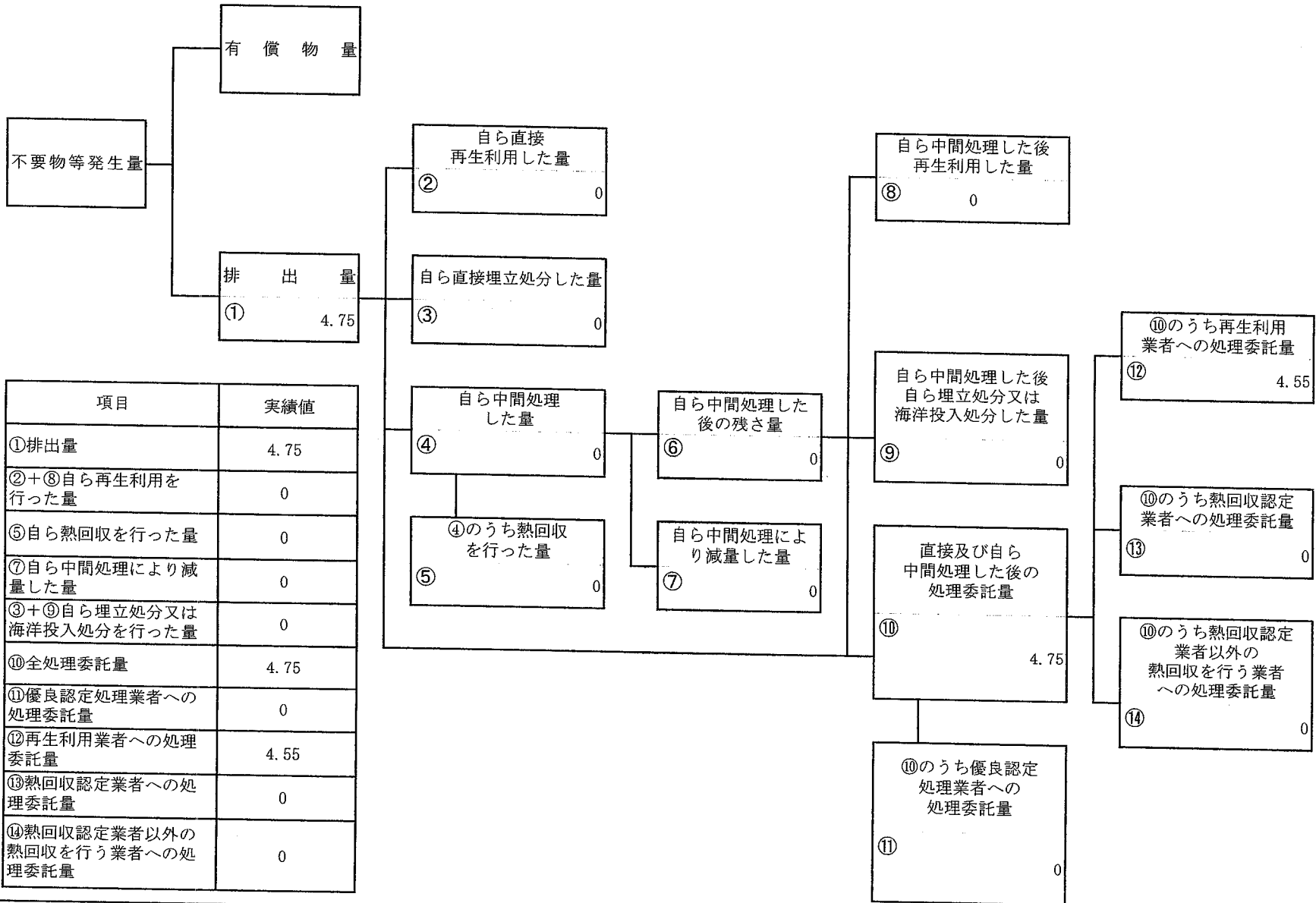
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：廃プラスチック類)



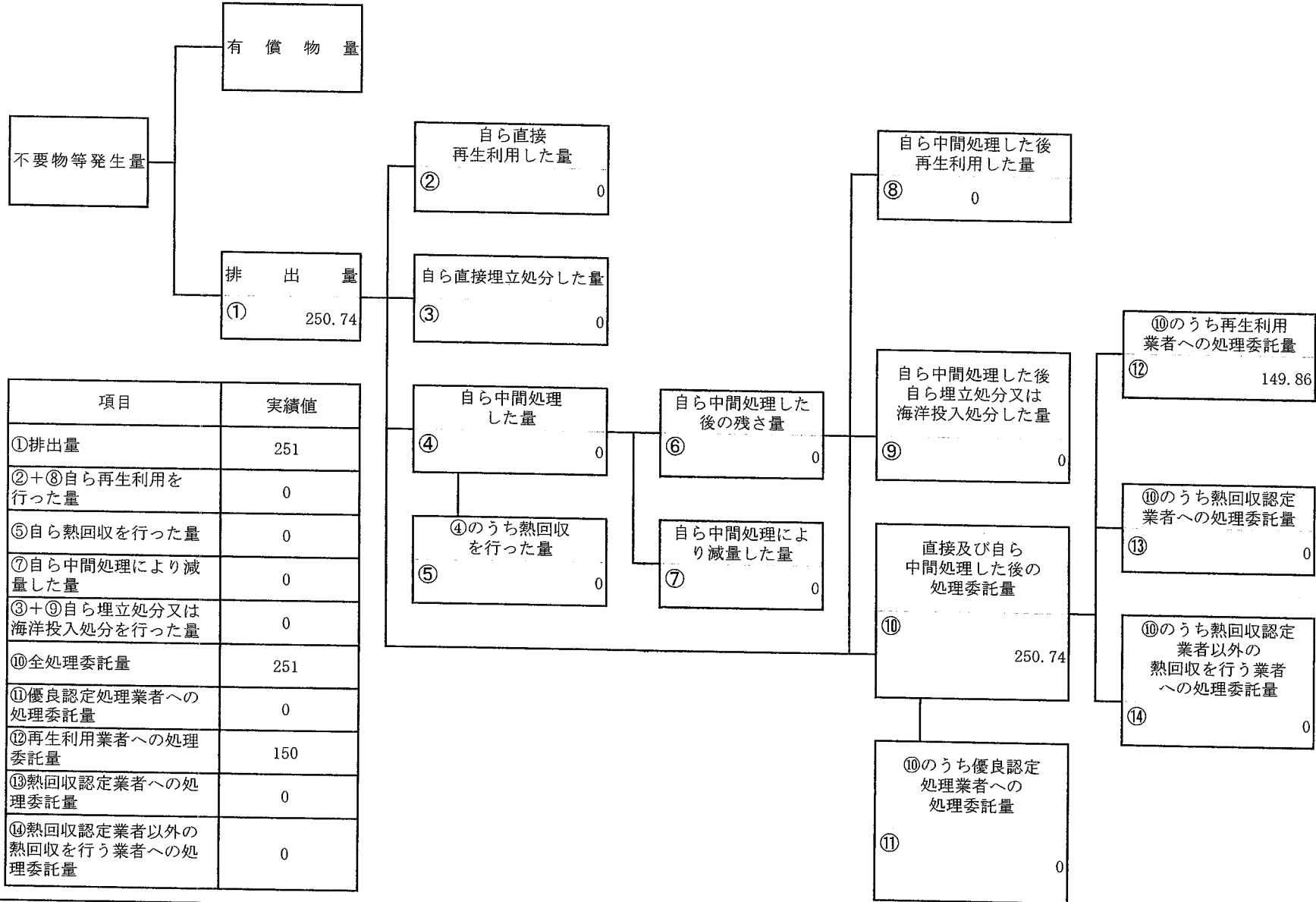
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：金属くず)



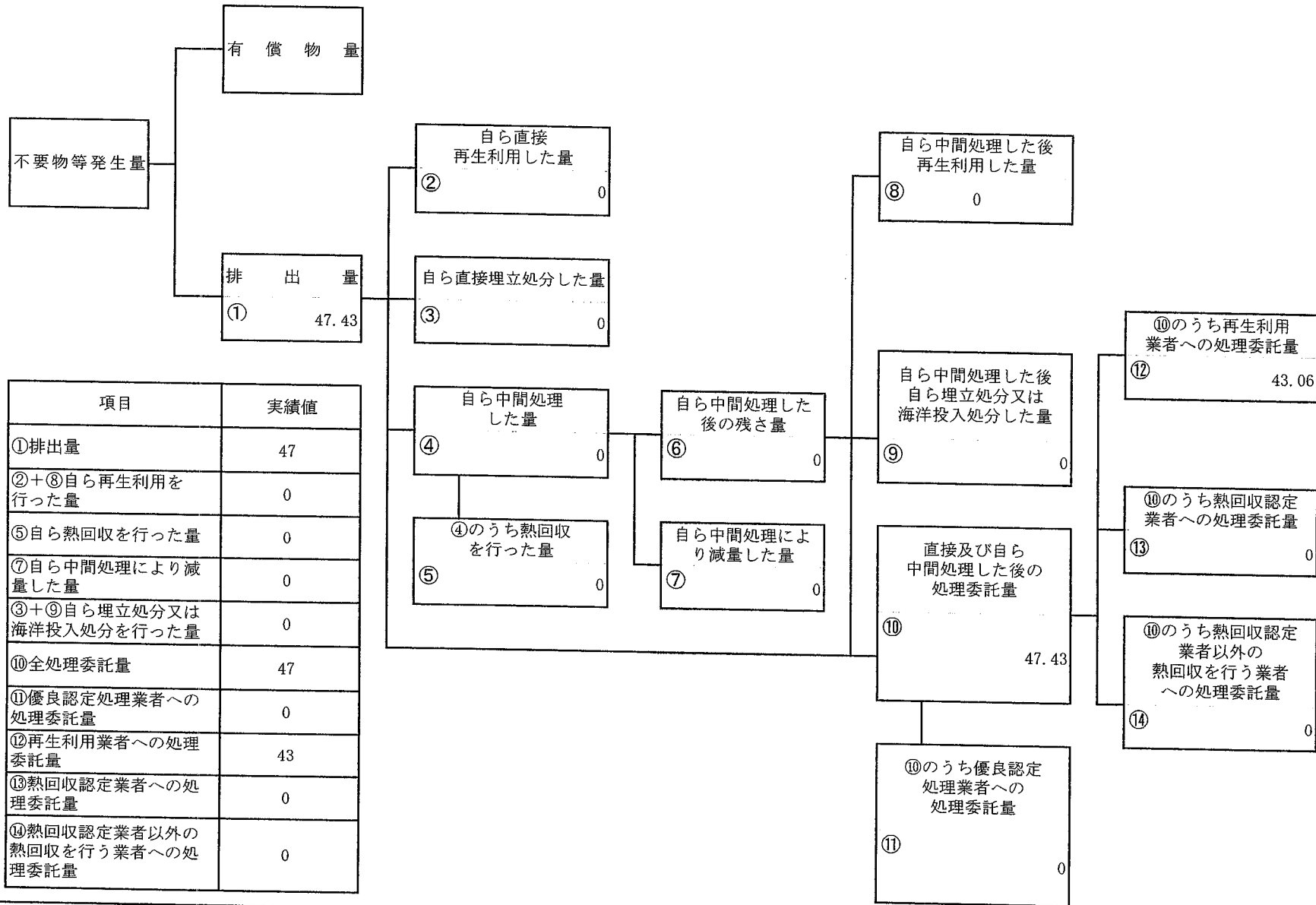
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：混合廃棄物)



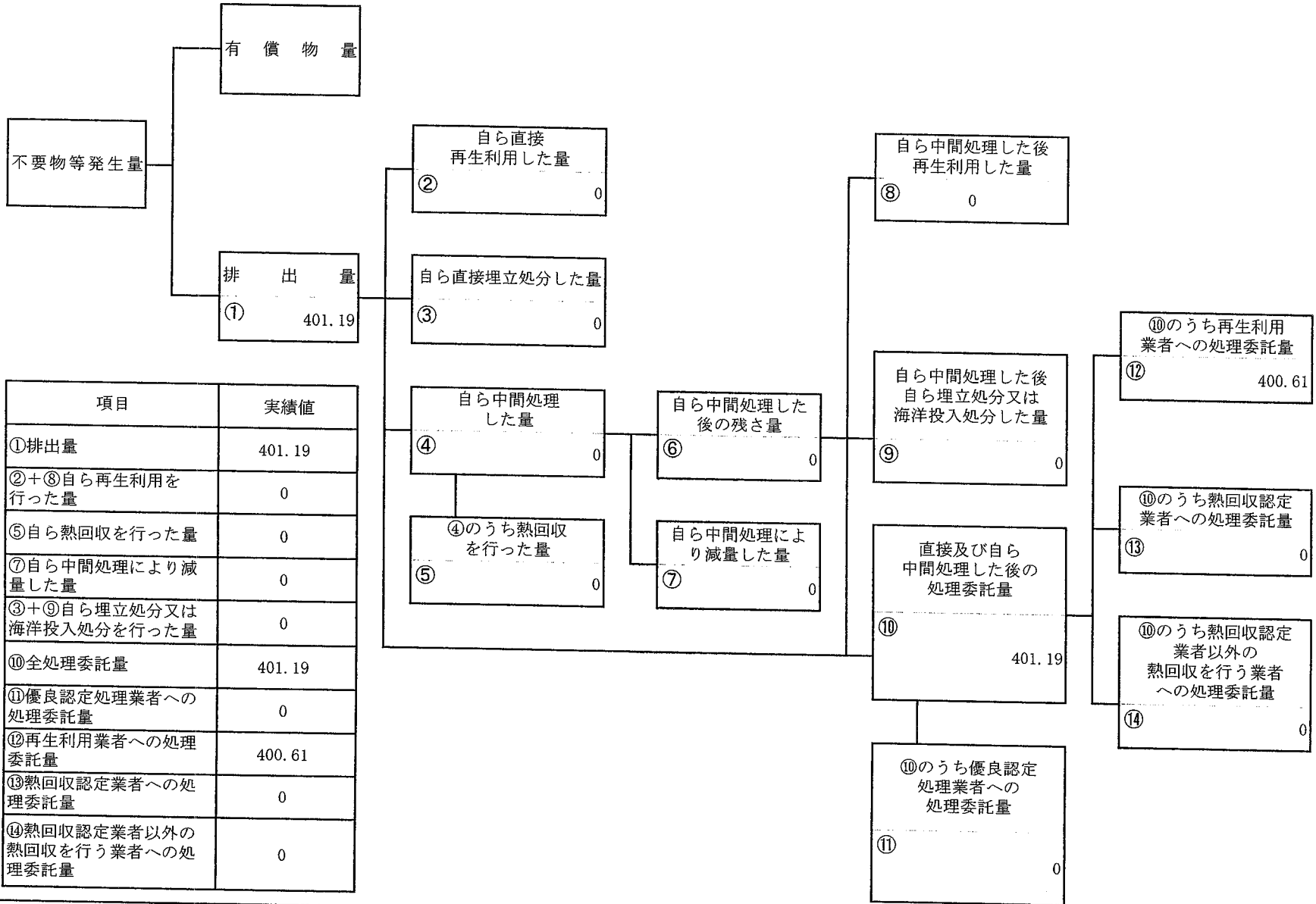
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：紙くず)



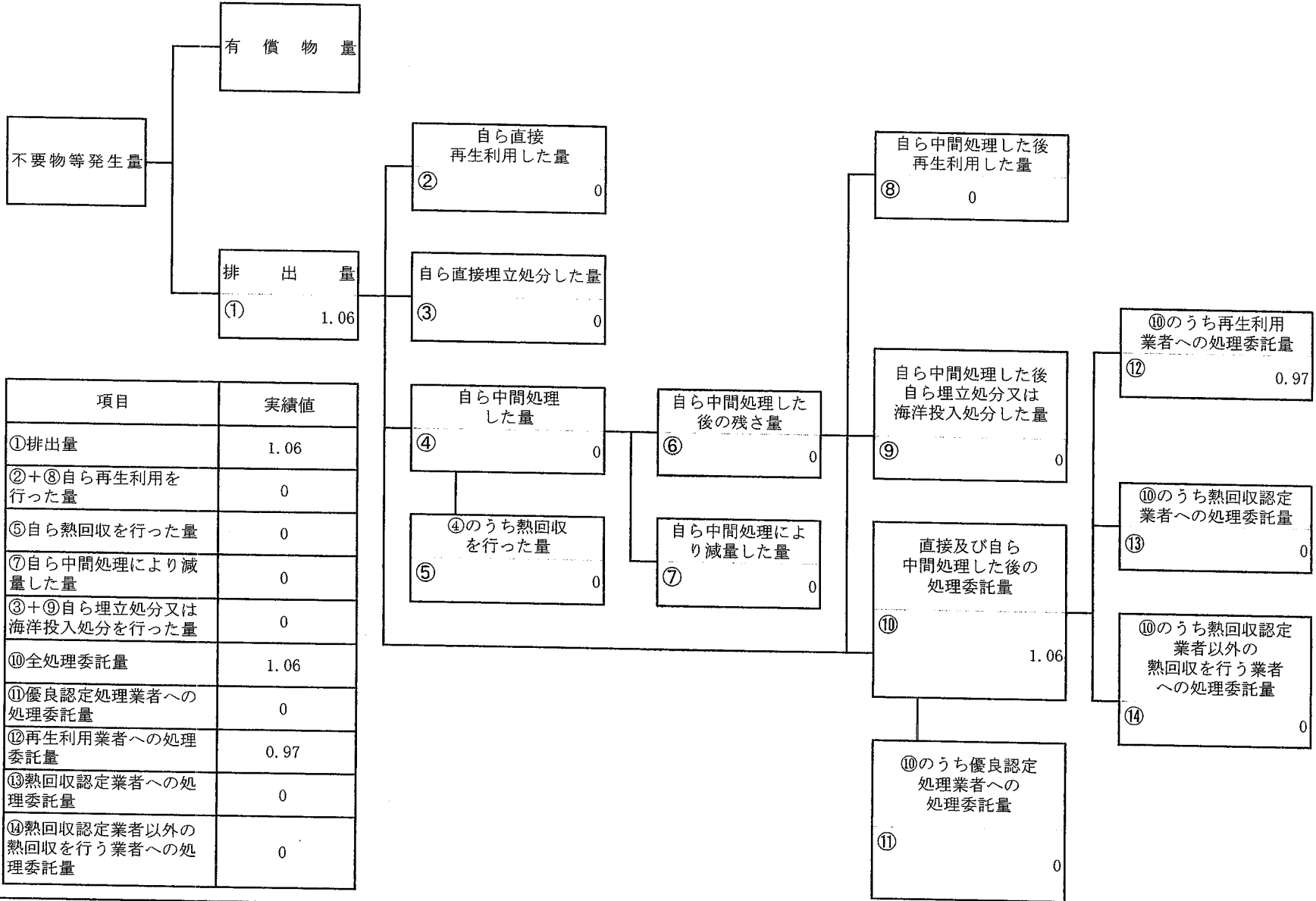
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：木くず)



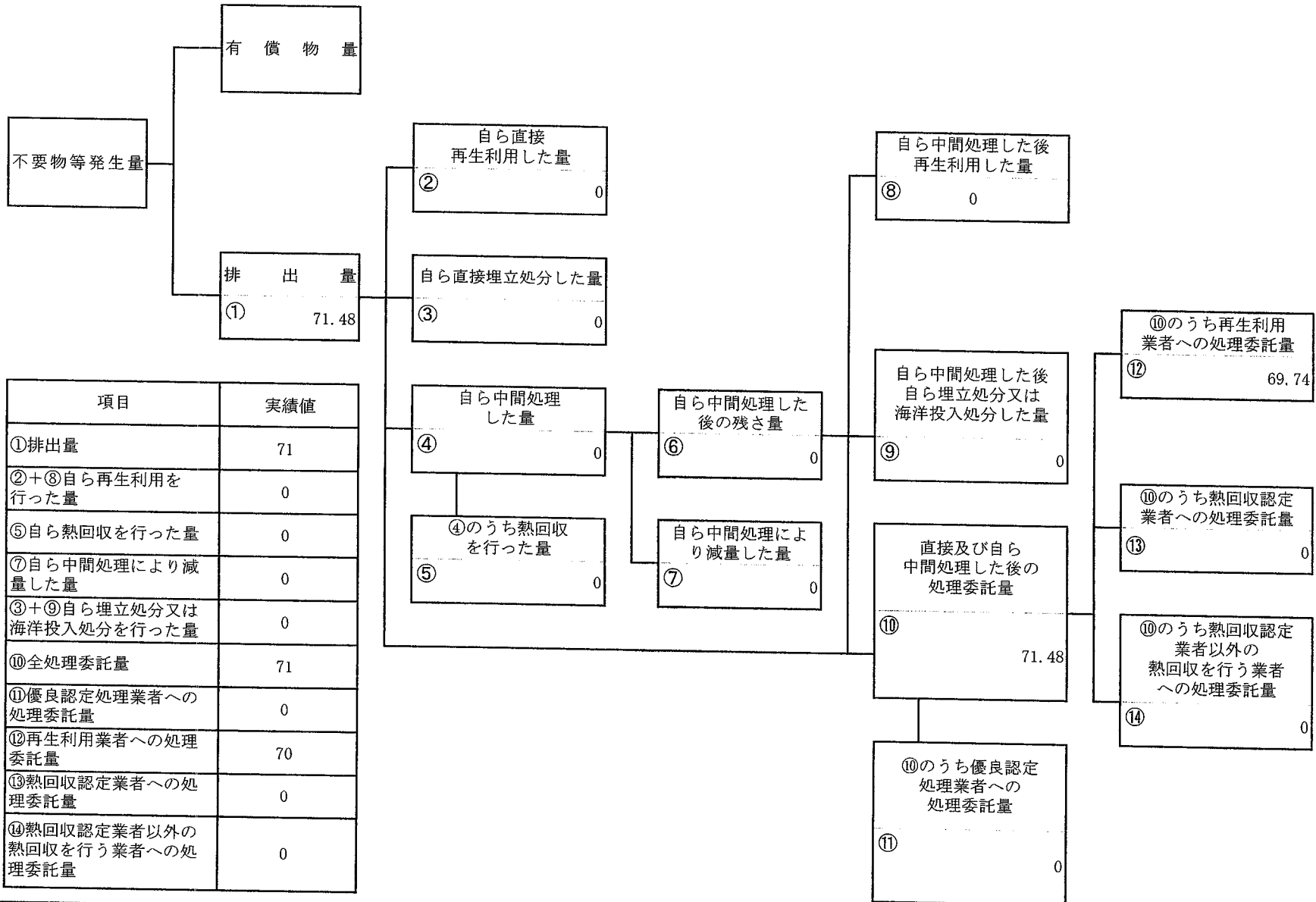
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：繊維くず)



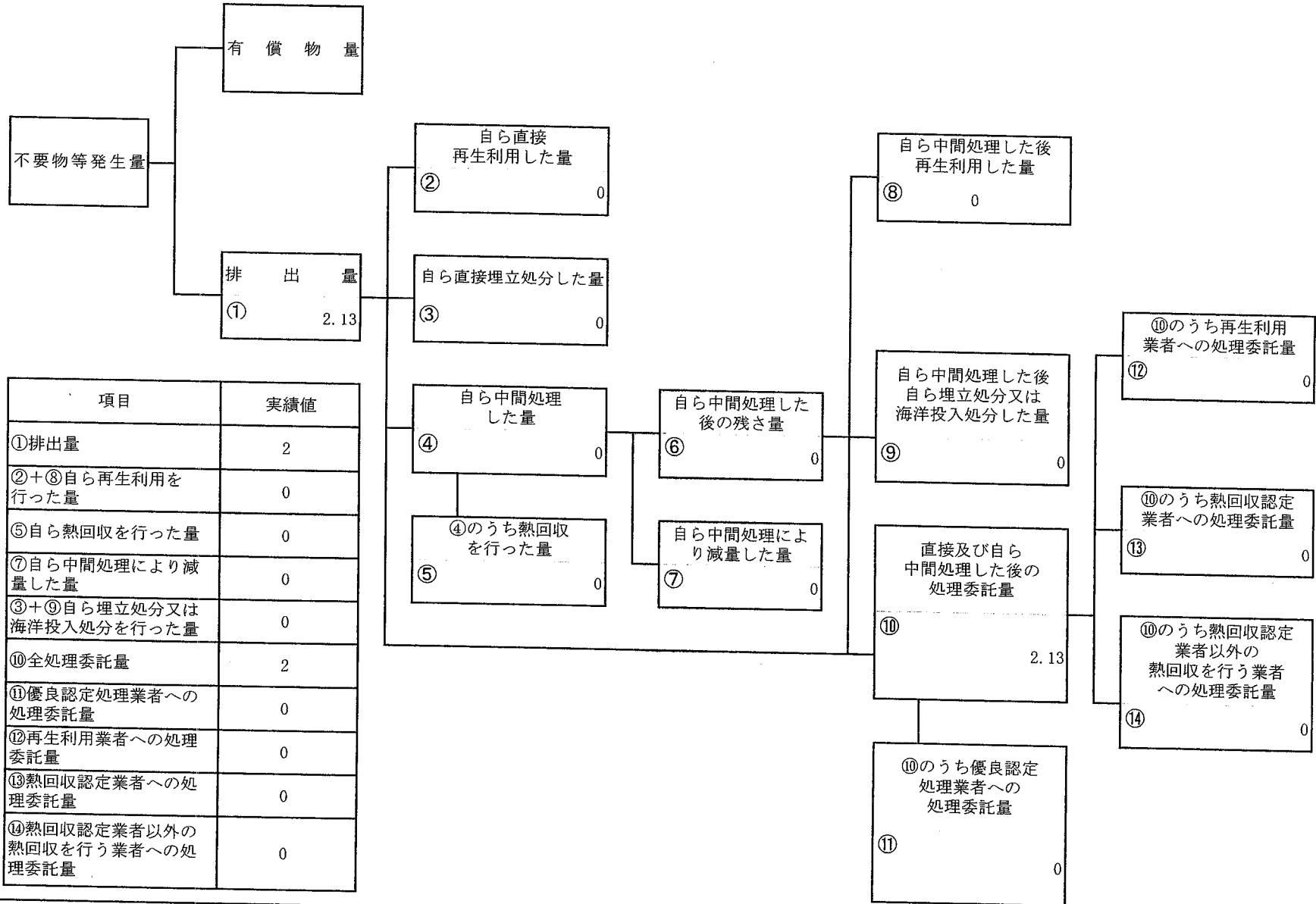
本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：石膏ボード)



本年度の計画(平成29年度)

(産業廃棄物の種類：石綿含有産業廃棄物)



(第2面)